

問 1 大気による太陽紫外線の吸収と、それによって生じる大気の成層について述べた次の文 (a) ~ (d) の下線部の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 高さ 100km くらいから上の層では、窒素や酸素の原子・分子が波長約 0.1 μm 以下の紫外線を吸収して原子がイオン化される光電離が起きることで電離層が形成され、中間圏界面の温度が高くなっている。

電離層が太陽放射を吸収するため低くなっている

(b) 酸素分子は、波長約 0.1 ~ 0.2 μm の紫外線を吸収すると、光電離して二つの酸素原子に分裂する。この酸素原子が酸素分子と結合してオゾンとなることで、オゾン層が形成されている。

(c) オゾンは、波長約 0.2 ~ 0.32 μm の紫外線を吸収すると、酸素原子と酸素分子に分解される。この紫外線の吸収によって成層圏界面の温度が高くなっている。

(d) 波長約 0.32 μm 以上の紫外線は、成層圏より下層の大気を通過する際に 90% 程度が吸収され、残りは地表面にまで達する。

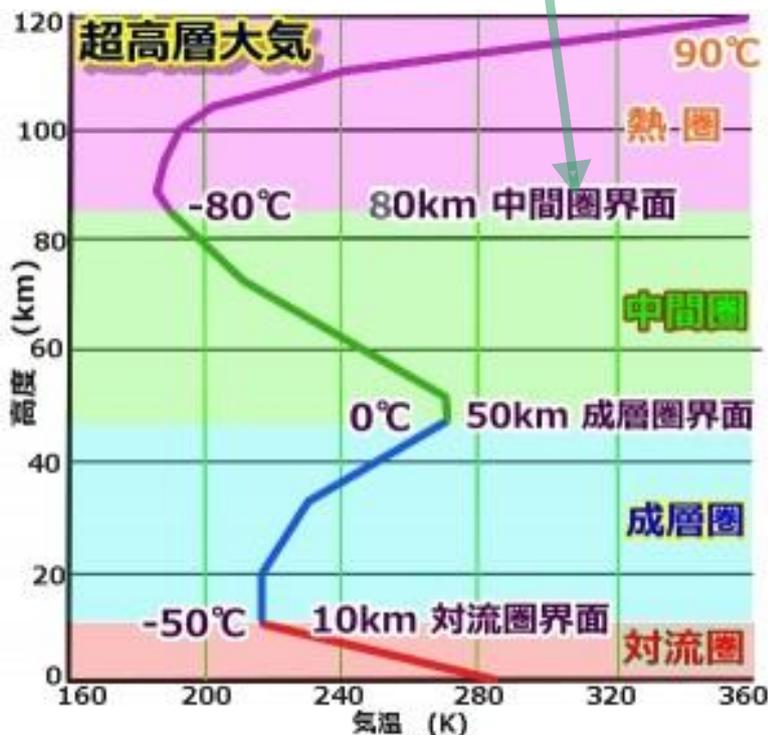
UV-Aは、大気による吸収をあまり受けずに地表に到達します。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 |
| ③ | 誤 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 |

UV-C (波長が短い)

UV-B (波長が中くらい)

UV-A (波長が長い)

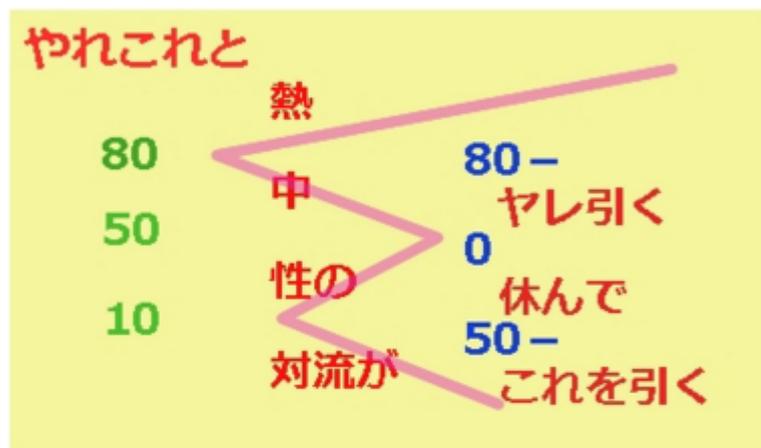


やれこれと、

熱中性の対流が、

やれ引く休んでこれを引く

ほとんど意味不明だが、無理な語呂合わせだから、勘弁してください。



使い方は、上図の絵描き歌として使います。

1. 「やれこれと」 で「80, 50, 10」の数字を縦に書きます。
2. 各数字の中間に、「熱中性の」の文字を書き入れます。
「性」は成層圏の意味です。
3. さらに、「ヤレ引く、休んで、これを引く」で、「-80, 0, -50」を書きます。
引くはマイナスの意味です。
4. 最後に、3の字を裏返したようなピンクの線を引けば、「簡易高層状態基本図」の完成です。

これに、オゾン層が25km付近にあるという情報を加えれば、一般知識の問1対策として、かなり有益だと思いますよ。

問 2 気塊が周囲の空気から受ける浮力に関する次の文章の空欄 (a) ~ (d) に入る最も適切な数値または語句の組み合わせを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。ただし、いずれの過程でも水蒸気の凝結は起きないものとする。

周囲の空気よりも温度が高い気塊は密度が小さいので浮力を受けて上昇する。気塊と周囲の空気の密度と絶対温度をそれぞれ $\rho, T, \bar{\rho}, \bar{T}$ 、重力加速度を g とし、気塊と周囲の空気の気圧が等しいとすると、気塊の鉛直加速度は次式で表される。

$$\text{鉛直加速度} \left(\frac{dw}{dt} \right) = g \frac{\bar{\rho} - \rho}{\rho} = g \frac{T - \bar{T}}{\bar{T}}$$

17+273 = 290K

ある夏の日の朝に、地表付近で日射によって温められた気塊が、気温が 17℃ の高度まで断熱的に上昇し、そのときの気塊の温度が周囲の空気よりも 6℃ だけ高かったとすると、この高度における気塊の鉛直加速度は、(a) m/s² である。ただし、 $g = 10 \text{ m/s}^2$ とする。

この気塊がこの後も上昇を続けると、その温度は周囲の空気と同じになる。その理由は、上昇する気塊の温度は (b) 断熱減率で低下するが、周囲の空気の温度減率は通常これよりも小さいためである。(b) 断熱減率はおよそ (c) °C / km であることから、周囲の空気の温度減率を 3°C / km とすると、この気塊はあと (d) km 上昇すると浮力を失う。

- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | 0.2 | 乾燥 | 10 | 0.9 |
| ② | 0.2 | 湿潤 | 15 | 0.5 |
| ③ | 0.2 | 乾燥 | 15 | 0.5 |
| ④ | 3.5 | 湿潤 | 10 | 0.9 |
| ⑤ | 3.5 | 乾燥 | 15 | 0.5 |

(a)

$g = 10 \text{ m/s}^2$

$(T - \bar{T}) = 6$

$T = 17 + 273 = 290 \text{ K}$

鉛直加速度 = $g(T - \bar{T}) / T$

= $10(6 / 290) = 0.21$

(b)

水蒸気の凝結がないので『乾燥断熱』

(c)

乾燥断熱減率は、ほぼ 10 / km

湿潤断熱減率は、4 / km 程度

下層大気の平均で、6.5 / km 程度である。

(d)

気塊の気温が 10 / km で低下する

周囲の大気は 3 / km で低下する

その差は (10 - 3) / km で小さくなる

6 の差が消えるのは、 $6 / (10 - 3) = 0.86 \text{ km}$ 上空になる

混合比の定義
= 水蒸気質量 / (乾燥空気質量)

問 3 次に示す三つの湿潤空気塊 (a) ~ (c) を比湿の小さい順に並べたものとして適切なものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。なお、比湿 s と水蒸気圧 e 、気圧 p の間には $s = 0.622e/p$ が成り立つものとし、温度と飽和水蒸気圧の関係は次の表のとおりとする。

比湿の定義 = 水蒸気質量 / (乾燥空気質量 + 水蒸気質量)

表 温度と飽和水蒸気圧の関係

温度 (°C)	0	5	10	15	20	25
飽和水蒸気圧 (hPa)	6.1	8.7	12.3	17.0	23.4	31.7

- (a) 温度 15°C の乾燥空気 990 g と水蒸気 10 g を混ぜてできた湿潤空気塊
- (b) 温度 22.5°C、露点温度 10°C、気圧 500 hPa の湿潤空気塊
- (c) 温度 20°C、相対湿度 80%、気圧 1000 hPa の湿潤空気塊

小 ~ 大

- ① (a), (b), (c)
- ② (a), (c), (b)
- ③ (b), (c), (a)
- ④ (b), (a), (c)
- ⑤ (c), (b), (a)

(a) $10 / (990 + 10) = 0.010$

(b) $0.622 \times 12.3 / 500 = 0.015$

(c) $0.622 \times (23.4 \times 80\%) / 1000 = 0.012$

故に (a) < (c) < (b) となる

問 4 雲中における氷粒子の成長について述べた次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 氷晶から成長した雪の結晶の形状は、基本的には、細長く柱状に伸びたものと薄く板状に広がったものに分類できる。柱状になるか板状になるかは、その結晶が成長するときの空気の過飽和度によって決まる。

温度と飽和度

次ページの図を参照のこと

(b) 雪結晶どうしが衝突して付着することにより雪片ができるが、衝突した雪結晶は温度が高いほど付着しやすく、また柱状結晶や角板状結晶より樹枝状結晶のほうが付着しやすい。

雪は

みんなの質問箱に書いた『雪とあられはどう違う』を確認して欲しい。雪は結晶、あられはくっつき団子である。

(c) あられは、過冷却水滴と氷粒子が共存している雲の中で、水と氷の飽和水蒸気圧の違いにより昇華が盛んに起こって氷粒子が成長して形成される。

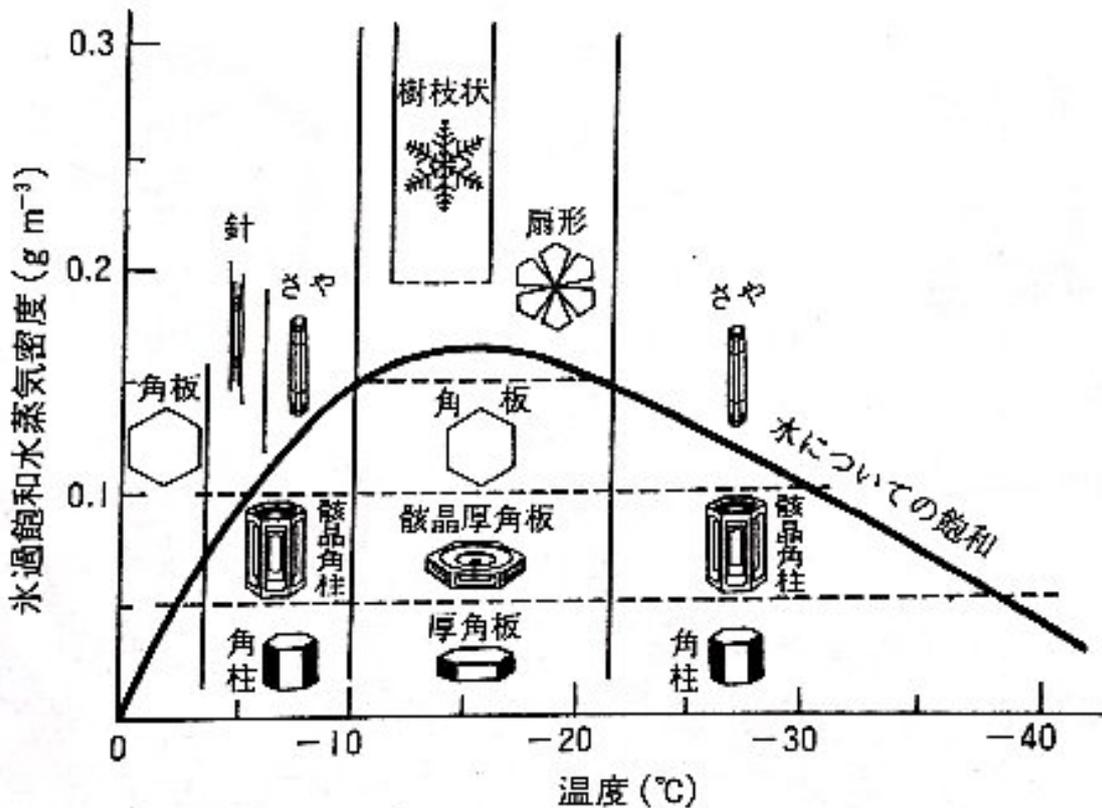
(d) ひょうは、積乱雲の内部に多数の過冷却水滴があり、また強い上昇流が存在するときに、上昇と下降を繰り返して成長する。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| ③ | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

「雪」と「ひょう・あられ」の根本的な違い

雪は水蒸気から出来る。

ひょうとあられは、水滴から出来る。



「一般気象学」【第2版】のP96L11に問題文と同じ文章がある。

「柱状になるか板状になるかは、その結晶が成長しているときの温度による」だから、正解は『誤』だと思うのだが、この問題は、実は微妙なんだ。

上の図をみると、結晶の形は、温度と過飽和度の両方の関係で決まるのだ。

この図の-15 を縦に見ると、問題文と合致していると見えなくもない。

また、「一般気象学」【第2版】のP96最下行には、こんな表現がある

「過飽和度が増すにつれ、角柱は薄く広がって骸晶厚角板になり、さらに扇形角板となる」この文章を読んだら、問題文を『正』と解釈する人もいるのではないだろうか。

問 5 地球と太陽の平均距離を R_0 , 地球の半径を r_0 , 地球のアルベドを A_0 とするとき, 太陽からの距離が R , 半径が r , アルベドが A である仮想的な惑星での太陽放射と放射平衡について述べた次の文 (a) ~ (c) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。ただし, 惑星はステファン・ボルツマンの法則に従って黒体放射するものとする。

距離の2乗に反比例 × 直径の2乗に比例 × 吸収率に比例

(a) $R=0.5R_0$, $r=0.5r_0$ の惑星の全表面に単位時間に入射する太陽放射エネルギー量は, 地球の全表面に単位時間に入射する太陽放射エネルギー量の 2倍 である。

$$1/(1/2)^2 \times (1/2)^2 = 1 \text{ 倍}$$

(b) $R=2R_0$, $r=r_0$, $1-A=0.5(1-A_0)$ の惑星の全表面で単位時間に吸収される太陽放射エネルギー量は, 地球の全表面で単位時間に吸収される太陽放射エネルギー量の 1/4 である。

$$1/2^2 \times 1^2 \times 0.5 = 1/8 \text{ 倍}$$

(c) $R=1.2R_0$, $r=1.2r_0$, $1-A=1.2(1-A_0)$ の惑星の放射平衡温度は, 地球の放射平衡温度よりも高い。

吸収される放射エネルギーは

$$1/1.2^2 \times 1.2^2 \times 1.2 = 1.2 \text{ 倍}$$

- (a) (b) (c)
 ① 正 正 正
 ② 正 正 誤
 ③ 誤 誤 正
 ④ 誤 正 誤
 ⑤ 誤 誤 誤

地球の放射強度を I_0 、惑星の放射強度を I とすると、

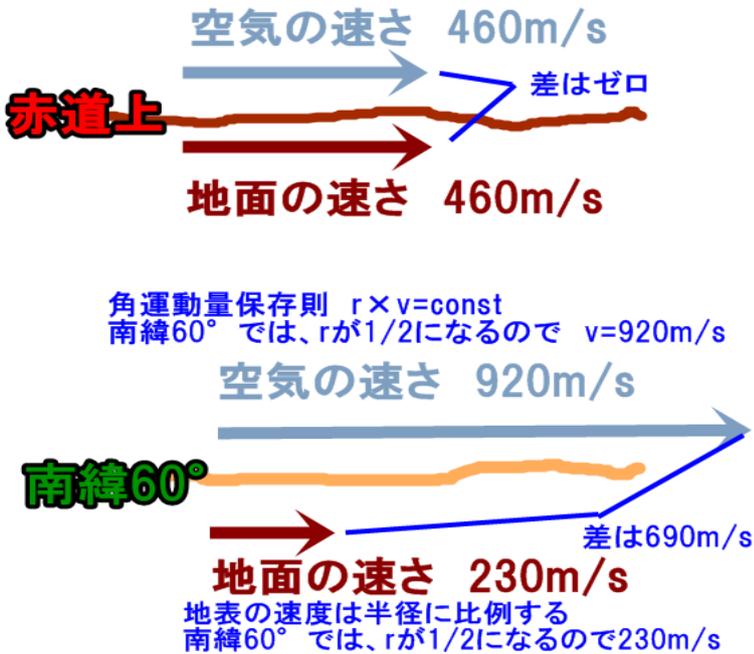
$$1.2 \times (4 r_0^2 \times I_0) = 4 (1.2 r_0)^2 \times I$$

$$1.2 \times I_0 = (1.2)^2 \times I$$

$$I = (1/1.2) \times I_0 \quad \text{放射強度が小さいので放射平衡温度は低い}$$

問 6 赤道における地球の自転速度は約 460 m/s である。はじめ赤道上空で地球表面に相対的に止まっていた空気が, 角運動量を保存しながら南緯 60° まで南下したとする。この空気の南緯 60° における地表面に対する移動速度として最も適切なものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

- ① 0 m/s
 ② 230 m/s
 ③ 460 m/s
 ④ 690 m/s
 ⑤ 920 m/s



問 7 傾度風について述べた次の文章の下線部 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

傾度風に摩擦力は関係ない

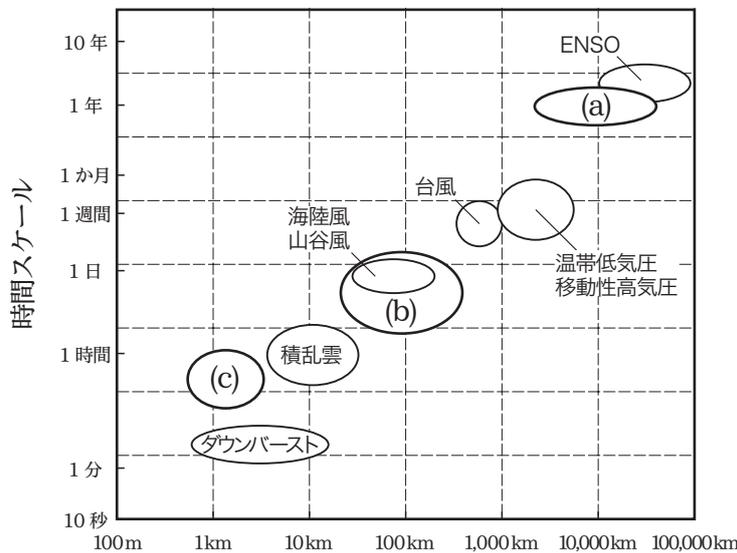
傾度風は, (a) 気圧傾度力, コリオリ力, 遠心力, および摩擦力が平衡しているときの大気中の風を表すものであり, 高気圧や低気圧周辺など等圧線が曲率を持っている場合には地衡風よりも実際の風をよく近似できる。等圧線と平行に吹く

低気圧の周辺では, (b) 傾度風は, 等圧線と交差して低気圧側に向かって吹き, (c) 気圧傾度が同じであれば, その風速は地衡風として求められる風速よりも大きい。一方, 高気圧では (d) 気圧傾度に上限があり, その値は中心に近いほど小さくなるため, 中心付近では等圧線の間隔が広がる。

(c)(d)は、次ページに解説図を描きました。

- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| ③ | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| ④ | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

問 8 大気現象の水平スケールと時間スケール (寿命) をまとめた次の図の空欄 (a) ~ (c) に入る適切な現象名の組み合わせを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。



周期が1-2ヶ月なので合致しない

大きさが数百~千kmなので合致しない

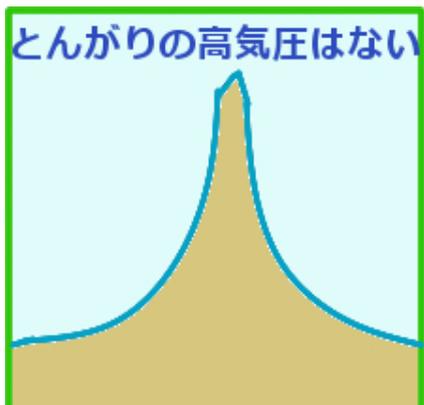
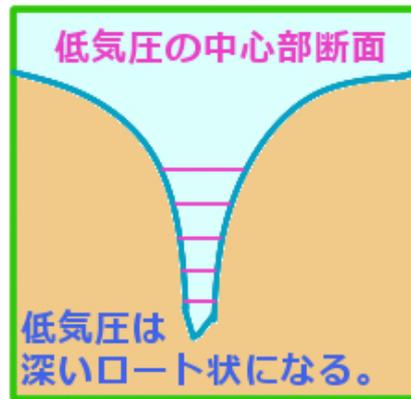
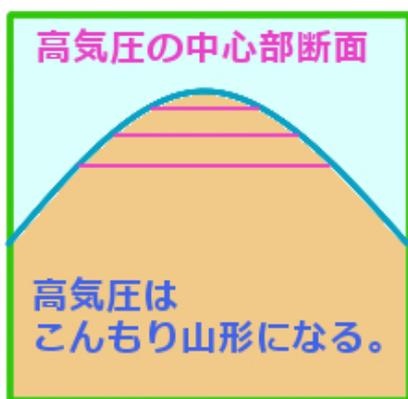
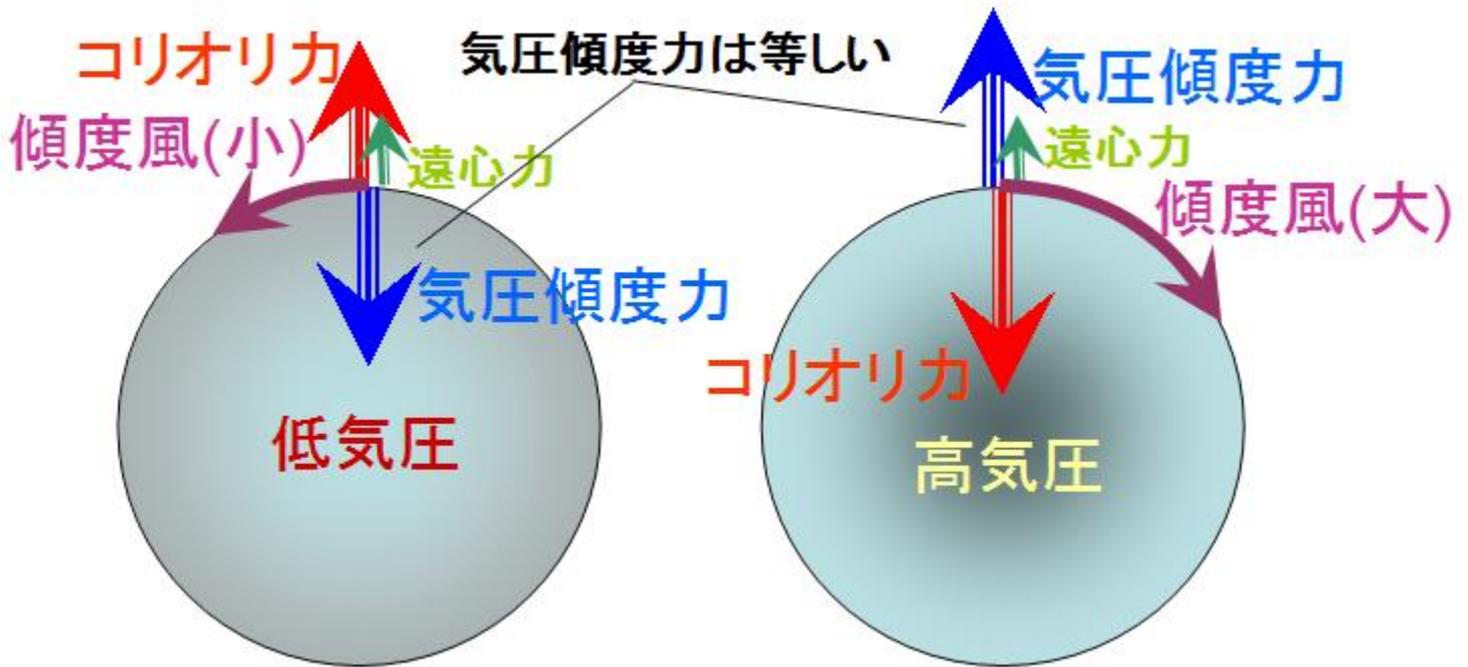
- | | (a) |
|---|--------------|
| ① | モンスーン |
| ② | モンスーン |
| ③ | マッデンジュリアン振動 |
| ④ | マッデンジュリアン振動 |
| ⑤ | 成層圏準 2 年周期振動 |

- | | (b) |
|---|-------|
| ① | 停滞前線 |
| ② | メソ対流系 |
| ③ | 雷雨 |
| ④ | 停滞前線 |
| ⑤ | メソ対流系 |

- | | (c) |
|---|-----|
| ① | 竜巻 |
| ② | 積雲 |
| ③ | 積雲 |
| ④ | 竜巻 |

大きさが数百mなので合致しない

周期が2年半ほどなので合致しない



が



問 9 発達期から最盛期における積乱雲中とその周辺の気流に関する次の文 (a) ~ (c) の下線部の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 発達期には、雲粒や雨粒を生成しながら雲は上にのびていく。雲の中は上昇気流が強く、典型的な例では雲の中の約 2/3 の領域が上昇流域、残りが下降流域である。

すべてが上昇流域である

(b) 最盛期には、雲頂は対流圏上部に達し、雲の中で成長したあられやひょうが上昇気流で支えきれずに落下を開始し、周囲の空気がこれらの氷粒子に引きずられて下降気流が生じる。氷粒子が融解する際には、この下降気流は、氷粒子の形状変化に伴う摩擦の減少が主要因となって弱まる。

蒸発によって冷やされ更に強まる。

(c) 最盛期には、雲底の下に冷気がたまり、これが局所的な高気圧を形成する。この高気圧の下降流が広がって生じる冷気外出流は、北半球では明瞭な時計回りの回転成分を持つ渦巻となる。

回転成分を持たずに放射状に広がる。

(スケールが小さいので、コリオリの影響は小さいから)

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 誤 |
| ③ | 誤 | 正 | 正 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 誤 |

この問題は、まず(b)を考えるとよい。

北半球と南半球を比較して、

「大規模な山岳を含む海陸分布の偏り」が大きいのはどちらか？と読み取ることが出来る。

当然ヒマラヤやアルプスの大規模な山岳があり、陸面積が広いのは北半球であるから

(b)は『北半球』であり、必然的に(c)は『南半球』である。

問 10 オゾンホールが発生過程について述べた次の文章の空欄 (a) ~ (d) に入る適切な語句の組み合わせを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

季節変化によって、太陽光が極域を照射しなくなると、極域成層圏の温度が低下し、極を中心に円形の極渦が形成される。対流圏内の地球規模の (a) が成層圏へ伝播するとこの極渦に変形を生じ、低緯度から熱が輸送されて極域の寒気は弱まる。対流圏内の (a) の形成には、大規模な山岳を含む海陸分布の偏りが関係しているため、北半球と南半球では (b) の方が極渦の変形を生じやすい。

一方、(c) の極渦は変形を生じにくく、内部の寒気の温度は極端に低下する。この極めて低温の環境下で極域成層圏雲が発生し、その雲粒の表面で人為的に放出されたフロン等を起源とする硝酸塩素等から (d) を生成する化学反応が起きる。春になって太陽放射が当たるようになると、(d) が解離して触媒として働くためにオゾンの破壊が急激に進んでオゾンホールが発生する。

(d)は、このまま覚えてください。

- | | | | | |
|---|---------|-----|-----|------|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | プラネタリー波 | 北半球 | 南半球 | 塩素分子 |
| ② | プラネタリー波 | 南半球 | 北半球 | 塩化水素 |
| ③ | プラネタリー波 | 北半球 | 南半球 | 塩化水素 |
| ④ | ケルビン波 | 南半球 | 北半球 | 塩素分子 |
| ⑤ | ケルビン波 | 北半球 | 南半球 | 塩化水素 |

赤道付近の気象現象だから関係ない

問 11 地上付近の気温を変化させるような気候変動の発生要因に関する次の文 (a) ~ (c) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 火山の噴火によって微細な硫酸粒子が成層圏に放出されて滞留すると、これが赤外放射を吸収するために地上付近の気温を上昇させる。

が、日傘効果で気温を低下させる効果が大きい

(b) フロンガスは温室効果を持つ大気下層のオゾンを消失させ、全球的に地上付近の気温を低下させる

が、自身の温室効果が強いので気温を上昇させる

(c) 地表面状態の変化により地球のアルベドが大きくなると、地上付近の気温が低下する。

雪や氷が地表を覆うと、アルベドが大きくなる

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 |
| ③ | 誤 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 誤 |

問 12 気象庁以外の者が予報業務を行うときに必要な気象庁長官の許可に関する次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 会社員が自社の屋外作業の計画を立てるために、気象庁から入手した資料を使って作業現場周辺のきめ細かな天気予報を行うときには、予報業務の許可を受けなければならない。

自社で使うのは勝手である

(b) 天気によって売れ行きが大きく変動する商品に関して、気象に関する専門知識に基づいて最適な需要予測を作成し業界に広く提供するときには、予報業務の許可を受けなければならない。

需要予測は、『気象現象の予報』ではない

(c) レジャーや野外イベント等での利用を想定して、空間的・時間的にきめ細かな独自の局地天気予報を定期的に行うときには、それが特定の旅行会社だけに提供する場合であっても、予報業務の許可を受けなければならない。

『業』として、社外に『気象現象の予報』を提供するので許可が必要

(d) 気象庁が発表する気温の予報を用いて、熱中症に関する注意喚起等の情報を発表するときには、予報業務の許可を受けなければならない。

気象予報に伴う注意は、気象業務法の制限を受けない。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| ③ | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

寒くなるから、1枚多く着なさい

風邪予防に、マスクをしなさい

雨が心配だから、傘を持ちなさい

問 13 気象予報士について述べた次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 気象予報士試験に合格した者は、遅滞なく気象庁長官に気象予報士の登録を申請しなければならない。 **登録申請は自由意志である**

(b) 気象庁以外の者が行う予報業務に従事する気象予報士は、その予報業務の対象地域に所在する事業所に配置されなければならない。

目的と範囲を届けをすれば、住居地にかかわらず全国の予報ができる

(c) 気象予報士は、その氏名または登録を受けた住所に変更があったときは、遅滞なく気象庁長官に届け出なければならない。

(d) 気象予報士は、気象の予報業務に従事するときには、自らが遅滞なく気象庁長官に届け出なければならない。

予報業務の許可を得る事業者が届け出るので、本人自ら届け出る必要はない。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| ③ | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| ④ | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問 14 気象等の観測施設の届け出について述べた次の文 (a) ~ (c) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 地方公共団体に属する教育機関が、研究のために降水量の観測施設を設置したときは、その旨を気象庁長官に届け出なければならない。

研究の場合は制限を受けない

(b) 鉄道会社が、横風による事故防止のために風の観測施設を設置したときは、その旨を気象庁長官に届け出なければならない。

(c) 河川の管理者が、住民に河川の状況を知らせるために河川の**水位**の観測施設を設置したときには、その旨を気象庁長官に届け出なければならない。

**水位の観測施設は、届け出機器に含まれない。
気象測器は7種類
= (温度・気圧・湿度・風速・日射・雨量・雪量)**

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 |
| ③ | 誤 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 |

**「事故防止のための風の観測施設」は、
「災害防止に利用するために気象観測を行う場合」に該当する**

問15 国土交通大臣が気象庁長官と共同で行う洪水予報に関する次の文 (a) ~ (d) の下線部の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) この洪水予報では、指定された河川で洪水のおそれがあるときは、水位又は流量のいずれかを示して水防活動の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。 **条文通りです**

(b) この洪水予報では、指定された河川が氾濫した後は、水位若しくは流量に
または 加え、必要に応じて浸水区域とその水深を示して水防活動の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。

(c) この洪水予報では、指定された河川が氾濫したときに浸水が想定される区域をあらかじめ指定し、浸水した場合に想定される水深を明らかにしておくなければならない。 **条文通りです**

(d) この洪水予報に関する通知を受けた都道府県知事は、市町村における水防を十分に果すべき責任を有する市町村長および同等の責務を有する機関の責任者に、その通知に係る事項を直ちに通知するよう努めなければならない。

しなければならない

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| ③ | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

(国の機関が行う洪水予報等)

第十条 気象庁長官は、気象等の状況により洪水、津波又は高潮のおそれがあると認められるときは、その状況を国土交通大臣及び関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ放送機関、新聞社、通信社その他の報道機関（以下「報道機関」という。）の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 国土交通大臣は、二以上の都府県の区域にわたる河川その他の流域面積が大きい河川で洪水により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、気象庁長官と共同して、洪水のおそれがあると認められるときは、(a)水位又は流量を、はん濫した後においては(b)水位若しくは流量又ははん濫により浸水する区域及びその水深を示して当該河川の状況を関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

3 都道府県知事は、前二項の規定による通知を受けた場合においては、直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者（量水標等の管理者をいう。以下同じ。）に、その受けた通知に係る事項（量水標管理者にあつては、洪水又は高潮に係る事項に限る。）を(d)通知しなければならない。

(浸水想定区域)

第十四条 国土交通大臣は、第十条第二項又は第十三条第一項の規定により指定した河川について、都道府県知事は、第十一条第一項又は第十三条第二項の規定により指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、当該河川の洪水防衛に関する計画の基本となる降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を浸水想定区域として指定するものとする。

2 前項の規定による指定は、指定の区域及び(c)浸水した場合に想定される水深を明らかにしてするものとする。